



北陽高校のパレード



湖陵高校の行灯行列



1年間の米留学から帰国の北星女子の諫山さんと



9月から米の大学で勉強します。



暑くない今年の夏期講座が始まりました。19まで



13期生の石田明日香さんがおなじバンドで!

【2013夏期講座!】
夏期講座が始まりました。受験生も、それ以外の学年の生徒にとっても、夏は勉強における天王山です。ちなみに、天王山とは「勝敗を決める大切な分かれ目」という意味です。
そんな夏、どのように学習と取り組み、消化したかによって、志望校合格も今後の学力向上も結果が大きく変わります。夏は今まで以上に真剣に学習に取り組んで下さい。
特に中3生は、9・10・11月の学力A・B・Cテストに向けてしっかり基本を身につけることを目標に学習して下さい。塾での4時間の学習の他に、夏休み中の宿題や予習をしてこななければならない課題もあります。この夏休みが志望校合格の第一歩となるようにしっかりと取り組んで下さい。

【親に9500万円賠償命令】
少年が自転車で人をはねた事故!
自転車で女性(67)をはねて寝たきり状態にさせたとされる少年(15)は当時小学5年。親の賠償責任が問われた訴訟の判決が4日、神戸地裁であった。田中智子裁判官は「事故を起こさないよう子どもに十分な指導をしていなかった」と判断。少年の母親(40)に対し、原告の女性側と傷害保険金を女性に支払った損保会社に計9500万円を賠償するよう命じた。
判決によると、少年は2008年9月22日夜、神戸市北区にある坂をマウンテンバイクで時速20〜30キロのスピードで下っていた際、知人の散歩に付き添い中の女性に衝突した。女性は頭の骨が折れ、現在も意識が戻っていない。
【中・韓も驚き・感動!】
電車押し救助、世界が絶賛!
読売新聞が22日夕刊で報じた、さいたま市のJR南浦和駅での女性客救出劇は、現場に居合わせた読売新聞記者の写真と共に世界各地でも報道された。
ホームと車両の間に落ちた女性を乗客らが力を合せて助け出したニュースに、「うちの国だったら、乗客は眺めるだけで何もしなかったかもしれない」「英雄的な行動」などの称賛の声が上がっている。
米CNNテレビは22日夜(日本時間23日午前)、キャスターが「日本から素晴らしいニュースです」と前置きし、本紙の写真と共に女性救出を報じた。キャスターは「生死に関わる状況で、駅員と乗客が冷静に協力した」と称賛。「おそらく、日本だけで起こりうる」として、電車が約8分後に通常運転を再開したことも合わせて伝えた。
英各紙がロイヤルベビー誕生の特集紙面を組む中、23日付ガーディアン紙は、「(駅員や乗客が)集団で、英雄的な行動を示した」とするAP通信の記事と本紙の写真を国際面で使った。
イタリアの主要紙コリエレ・デラ・セラのウェブサイトに「イタリア人だったら眺めるだけだろう」といったコメントも。香港でも、中国政府寄りの論調で知られるフェニックステレビのウェブサイトに、「中国で同様の事故が起きれば、大多数の人はやじ馬見物するだけだ」といった書き込みが見られた。

判決は「少年の前方不注意が事故の原因」と認定。少年側は「危険な走行はしておらず、日頃から指導もしていた」として過失責任を否定したが、判決は母親が唯一の親権者としての監督義務を十分に果たしていなかったと判断した。そのうえで、女性事故に遭ったために得ることができなくなった逸失利益や介護費などを考慮し、母親には女性側へ3500万円、損保会社へ6千万円の賠償責任があるとした。
朝日新聞デジタル7月5日
夏なので自転車に乗ることが多くなっていますが、人事ではありません。自分もこんなことになるか分かりません。事故にあったり、事故を起こさないように交通ルールを守って乗りましょう。夜は必ずライトをつけましょう。
対日関係が冷え込む中国では、政府の指導下にある有力ニュースサイト「中国ネット」が24日、日本での報道を引用する形で事実関係を論評抜きで報道し、国営新華社通信(電子版)などが転載。韓国でも聯合ニュースなどのメディアが、多くは、読売新聞の報道を引用して伝えた。23日の朝鮮スポーツ紙(電子版)は「乗客が力を合せて救助する感動の写真が話題になっている」と指摘した。
ロシアの大衆紙「コムソモリスカヤ・プラウダ」(電子版)には「どうしてこんなに迅速に乗客が団結できたのだろうか」「他人の命に対して、我々ロシア人も無関心であってはならない」と、驚きのコメントが寄せられた。
タイのニュース専門チャンネル最大手TNNは、本紙の写真を、「日本の人々が生来の結束力を余すところなく示し、困っている人に助けの手をさしのべた、素晴らしいニュース」と紹介した。タイのソーシャルメディアでは、この写真をシェアする人が多く、フェイスブック上では「日本が、また世界を驚かせた」といったような行動ができる日本人は、どのような教育を受けているのか」との声も出ている。
(2013年7月26日 読売新聞)



電車とホームの間に足を挟まれた女性を救出するため、車両を押し戻す乗客や駅員ら。

普通の日本人は、まだ捨てたもんじゃないです。困っているなら助けてあげよう。世界は違うんです。

6月14日に行った漢字検定では、準2級2名、3級3名、4級1名、5級3名、6級2名、7級2名、8級1名、9級2名が合格でした。24名が受験し16名の合格。合格率は66%でしたが、小学生は全員合格でした。次回は11月です。
夏期講座の宿題にも漢字と語彙力が出ていますが、漢字はすべての教科の基本となります。日頃から辞書を使い漢字を覚えるようにしましょう。
【学力コンクールと数学検定】
10日は1、2年生で10時30分〜2時40分、11日は3年生が10時30分〜3時55分の予定で学力コンクールがあります。筆記用具、コンパス・定規を忘れないうこと。昼食も必要です。24日(土)は数学検定を実施します。こちらは希望者のみ受検です

【漢字検定結果】
6月14日に行った漢字検定では、準2級2名、3級3名、4級1名、5級3名、6級2名、7級2名、8級1名、9級2名が合格でした。24名が受験し16名の合格。合格率は66%でしたが、小学生は全員合格でした。次回は11月です。
夏期講座の宿題にも漢字と語彙力が出ていますが、漢字はすべての教科の基本となります。日頃から辞書を使い漢字を覚えるようにしましょう。
【学力コンクールと数学検定】
10日は1、2年生で10時30分〜2時40分、11日は3年生が10時30分〜3時55分の予定で学力コンクールがあります。筆記用具、コンパス・定規を忘れないうこと。昼食も必要です。24日(土)は数学検定を実施します。こちらは希望者のみ受検です

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木
						● 学力テスト	● 第1回数学検定			● 通常授業スタート	● 附属中定期テスト	● 夏期講座最終日	● 新学期準備休み	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 3年生学力コンクール	● 1・2年生学力コンクール	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	
						● 学力テスト	● 第1回数学検定			● 通常授業スタート	● 附属中定期テスト	● 夏期講座最終日	● 新学期準備休み	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 3年生学力コンクール	● 1・2年生学力コンクール	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	● 夏期講座	



携帯電話の持ち込み禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。

ステップゼミナール 根室上野さんの作品から

『親の時代とは大違い 高校受験「内申書」の事実』

高校受験シーズン本番。「先生に反抗すると内申に響く」などという表現をいまだに聞く。しかし、中学校における成績評価の仕方や高校入試における内申点の扱いは、親の頃とは全く変わっているのだ。教育ジャーナリストのおおたとしまさ氏が謎に満ちた内申書の真実を東京都・神奈川県を例のもとに解説する。

■高校入試における内申書の比重は低減傾向にある。

通称「内申書」は、都道府県によって実際には「調査書」や「報告書」という名称で、高校入試において欠かせない資料である。

まず、現在の高校入試における内申書の比重を見てみよう。2013年度の東京都高校入試では、半数以上の学校が、調査書点、いわゆる内申点を3割の比重で扱うとしている。ちなみに10年前は内申点にもっと大きな比重が置かれており、内申点が3割の学校は全体の1割程度しかなかった。神奈川では2013年度から高校入試制度が変更される。主に内申書と面接で選考される「前期選抜」の制度がなくなり、全員に学力検査と面接を課すことになった（一部学校を除く）。高校入試における内申点の比重は低減傾向にあるのだ。

■相対評価から絶対評価に成績の付け方自体が変化

さらに成績の付け方自体が、親が中学生だった頃とは大きく変わっていることも知っておかなければならない。2002年度にいわゆる「相対評価」から目標に準拠した評価、いわゆる「絶対評価」になったのだ。

相対評価とは、学年内の順位に従って5段階評価を割り振る方法。親世代の成績はこの方法で決められていた。しかしこの方法だと、学力の高い学校の生徒ほど評定が厳しくなるという不公平が生じる。また学年内に過剰な順位争いの意識を生む恐れもある。代わりに導入されたのが絶対評価である。

例えば理科。「観察・実験の技能」や「自然事象についての知識・理解」など、観点別に定められた目標に対して、「おおむね満足できると判断される」レベルにあればBが付く。同様に「十分満足できると判断される」場合はAが、「努力を要すると判断される」場合はCが付く。順位は関係ない。そして各観点の「評価」の総括として、1～5の「評定」が付けられる。理論上はクラス全員が5ということもあり得るのだ。

各学習項目について、どのレベルに達していれば「おおむね満足できる」と判断できるのかという目安については、国立教育政策研究所のホームページに公開されており、全国の教員がそれを参考に評価計画を作成し、学校が承認することになっている。よって理論上は、ある生徒が東京都の学校から他県の学校に転校したとしても、同じ評定が付くことになる。

また生徒や保護者からの要望があった場合、評価の根拠について、資料などを示して説明している。

■内申書の信憑性が下がったという声も。

このような仕組みで、各学期、各学年の成績が付けられ、内申書に記入される。東京都の場合、3年生の1学期・2学期の成績を総合評価したものが記入される。神奈川県の場合、2年生の学年成績と3年生の2学期までの総合成績が記入される。内申点は当然、生徒本人にも知らされる。志望校選択の判断材料として必要になるからだ。

教育委員会は「客観的でフェアな評価方法である」と言い切る。

【これが調査書だ】

A 「評価」

例えば国語であれば、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」などの観点別に、学習指導要領に定められた「教科の目標」に対する到達度によって、A～Cの3段階で評価される。テストの点だけで評価されるとは限らない。

B 「評定」

観点別の「評価」を基に、「評定」が1～5の5段階で決められる。よって、テストの点が悪くても観点別の「評価」が悪くなければ「評定」は良くなる。高校入試では「評定」を得点化して可否の判断材料にする場合が多い。

C 「諸活動の記録」

所属した部活や委員会活動などについて、客観的な事実のみを記入する欄。主に面接のときに確認する事項として記入されている。数値化されず、高校入試の可否に直接影響することはない。

D 「総合的な学習の時間内容及び評価」

「総合的な学習の時間」に行う活動は、学校や学級によって異なるので、全国一律に評価することはできない。そこで、その学校・学級で行った活動内容と、その

なかでの生徒の活動に対する評価を文章で記す。数値化されることはない。

しかし、教育現場にはさまざまな事情がある。実際、どのレベルをBと判断するかは規準設定は、現場の教員に任されているのが現状だ。教員の主観で個別の生徒の評価を変えることは難しい仕組みになってはいるが、全体的に甘い評価に見える状況と、厳しい評価に見える状況が現実的にはあり得る。実際、ある私立高校の教員は「絶対評価になってから、内申書の信憑性が下がった。公立の高校では禁じられているが、多くの私立高校の推薦入試では、内申書だけではなく公開模試の成績も提出させるようにしているのが実情」と証言する。

「5」ばかりが多かったり、「1」が極端に少なかったりする場合は、市区町村の教育委員会を通じて学校の評価規準を確認する。これに対しある区立中学校教員は、「評定1の生徒が本当にいないことだってある。生徒の本当の力を評価してあげられるのが絶対評価のいいところ。しかしそのような成績を付けると、教育委員会の指導の対象になってしまう。矛盾を感じる」とこぼす。

■内申書の“都市伝説”を検証

わかりにくい仕組みゆえ、内申書についてはさまざまな噂が飛び交う。仕組みを学んでみれば、そのほとんどが思い込みであるとわかるだろう。

Q レベルの高い子が集まる中学では、良い内申点を取ることが難しい？

A 「相対評価」ではないので、そのようなことは起こらない

2002年度に「相対評価」から「目標に準拠した評価」、いわゆる「絶対評価」に変更された。「相対評価」の場合、学年内の順位によって「評定」が決まっていたので、レベルの高い学校の生徒は相対的に「評定」が厳しくなる傾向があった。しかし現在は、学習指導要領が定める「教科の目標」に対する到達度による「目標に準拠した評価」になったので、そのような不公平は理論上起こらない。

Q 先生に嫌われると内申点に響くというのは本当？

A 先生の主観が内申点に影響を与えることはない

「評価」や「評定」は、あらかじめ定められた「教科の目標」に対しての各生徒の到達度を、あらかじめ教員が決めておいた客観的規準に照らし合わせて決められる。その規準は、生徒や保護者に事前に説明することが原則になっている。よって教員の主観が、個別の生徒の「評価」や「評定」に影響を及ぼすことはほぼあり得ない。

Q 定期試験の平均点が100点なら必ず「5」が付くのか？

A テストの点がすべてではない。必ず「5」とは限らない

5段階の「評定」は、各教科の観点別の3段階「評価」の総括として出される。観点別の「評価」はペーパーテストの点数だけではなく、実技の出来、提出課題の質、授業中の発表の内容なども加味して付けられる。国語の「話す・聞く能力」、理科の「観察・実験の技能」のように、観点によってはペーパーテストだけでは測定できないものもある。よって、定期試験が満点でも「評定」が5になるとは限らない。

Q 授業中に手を挙げると内申点が悪くなる？

A 内申書の「態度」は授業態度のことではない。挙手の回数が評価に直接影響を与えることはない

各教科の「観点別学習状況」には必ず、「関心・意欲・態度」という項目が含まれている。成績表における「態度」とは、「学んだことを次の学習や生活に生かしていこうとする態度」のこと。挙手の回数で「態度」の「評価」が決められることはない。何をもち「関心・意欲・態度」とするのかについては、学校は、あらかじめ評価規準を決め、生徒や保護者に説明することになっている。

Q 学級委員や部活のキャプテンは有利？

A 学級活動や部活については、事実のみを書く欄があるだけ。内申点には関係ない

評価すべきプラス要素として記す場合は、「所見」などの別欄で記述される。あくまでも面接での参考資料になるだけで、数値化されることはない。

Q 生活態度が悪いと内申点に悪影響を与えるのではない？

A 生活態度を評価する欄はない。所見にもネガティブなことは原則書かない。授業態度や生活態度は、生活指導の範疇（はんちゅう）なので、調査書には反映されない。県によっては「行動の記録」や「所見」という記述欄があるが、あくまでも面接のときの参考資料として活用するためのものであり、それ自体を評価に活用することはない。ただし、高校によっては遅刻や欠席日数を参考資料として考慮する場合がある。（日経新聞 教育ジャーナリスト おおたとしまさ）

保護者の皆さんにご理解を頂きたい内申書の実態です。東京、神奈川が例になっていますが、北海道も大きく違っているわけではありません。お父さん、お母さんの時代とは大きく違うことを、是非ご確認下さい。